

## 美里町立美里中学校 全国学力・学習状況調査の概要

### 教科に関する調査結果から

〈中学校〉

理科は、全国、県を上回るレベルである。国語及び数学は、全国、県とほぼ同等のレベルである。

#### 【国語】

○全ての領域で、県、全国平均正答率を上回る。特に、「読むこと」に関しては、大幅に上回っている。

▲自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことに課題が見られる。  
⇒振り返りにおいて、根拠となる資料を適切に引用し、自分の考えを書く活動を充実させる。

#### 【数学】

○「データの活用」領域において、県平均正答率を上回り、成果が見られる。  
▲「関数」の領域において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。  
⇒数学的な表現を用いて、説明する活動を充実させる。

#### 【理科】

○「粒子」「生命」の領域で、正答率が県平均、全国平均を大幅に上回る。  
▲「エネルギー」の領域で課題が見られる。  
⇒一問一答や小テストなど、基礎事項の定着を図る活動を充実させる。

### 改善に向けた取組

- 生徒のタブレット使用時間を増やすため、いつでも使える環境整備、朝学習の新設、教師のスキルアップ研修を実施する。
- 生徒が書いた振り返りを教師が振り返り、授業改善を行う。
- 理科での記述で回答する設問における正答率の高さを分析した。①聞かれていることに答える②結論から先に③1つの文で1つのこと④断定する といったポイントを示し取り組ませていた。記述のポイントを示すことを各教科で行う。

### 生徒に対する質問紙調査結果から

生徒の自己有用感が県平均に比べて全般的に高い。また、毎日、同じくらいの時間に起きている、読書が好きだと答えた生徒の割合も県平均に比べて高い。教科に関する調査結果との相関関係は、「自分でやると決めたことは、やり遂げる」と回答した生徒の正答率が高い傾向にある。

- 「読書は好きだ」と回答している生徒の割合が全国に比べ15%高い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答している生徒の割合は全国に比べ17%高い。その結果「自分には、よいところがある」と回答している生徒の割合も全国に比べ8%高いことがわかった。
- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対し、当てはまると回答している生徒の割合が高い。
- 今住んでいる地域の行事に参加していると回答する生徒の割合が高い。
- ▲学校でのICT機器の活用頻度は、全国平均、県平均に比べかなり低い。一方で、生徒は「ICT機器が学習に役に立つと思う」との回答が全国平均、県平均を上回っている。  
→タブレットを有効活用することで学力向上に繋げる。また、昨年度のICTを活用した授業実践を行ったが、教員側と生徒側に、使用に関しての認識の乖離が見られた。部会からICTの効果的運用方法を提示し、タブレットを文房具として日常的運用につながるように学校全体で取り組む

美里町 全国学力・学習状況調査の概要

教科に関する調査結果から

〈小学校〉 全ての教科において、県平均正答率を下回るレベルである。  
 〈中学校〉 国語と数学は、ほぼ同じレベルであり、理科においては、県を上回るレベルである。

○：よい傾向 ▲：改善の必要あり ⇒：改善策  
 ( )の数値は県平均を100とした場合

	小学校	中学校
国語	63P(94.0) ○「読むこと」に関しては、昨年度を比較して、向上が見られる。 ▲文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書くことに課題が見られる。 ⇒学年に応じて、具体的な良さや書くこととしたことの明確さ、文章全体の構成や展開の明確さなどを見付ける活動を充実させる。	71P(101.4) ○全ての領域で、県、全国平均正答率を上回る。特に、「読むこと」に関しては、大幅に上回っている。 ▲自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことに課題が見られる。 ⇒振り返りにおいて、根拠となる資料を適切に引用し、自分の考えを書く活動を充実させる。
算数 数学	59.0P(92.2) ○「図形」の領域で、昨年度を比較して、向上が見られる。 ▲「変化と関係」の領域において、数量と割合について正しく理解することに課題が見られる。 ⇒日常の場面と対応させながら、図や式などを用いて基準量と比較量の関係について表す活動を充実させる。	51P(98.0) ○「データの活用」領域において、県平均正答率を上回り、成果が見られる。 ▲「関数」の領域において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。 ⇒数学的な表現を用いて、説明する活動を充実させる。
理科	61P(93.8) ○「生命」「地球」の領域において前回と比較して、向上が見られる。 ▲実験結果を分析・解釈し、考えを記述することに課題が見られる。 ⇒観察、実験の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する活動を充実させる。	51P(104.1) ○「粒子」「生命」の領域で、正答率が県平均、全国平均を大幅に上回る。 ▲「エネルギー」の領域で課題が見られる。 ⇒一問一答や小テストなど、基礎事項の定着を図る活動を充実させる。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

児童生徒の自己有用感が県平均に比べて全般的に高い。また、毎日、同じくらいの時間に起きている、読書が好きだと答えた児童生徒の割合も県平均に比べて高い。教科に関する調査結果との相関関係は、「自分でやると決めたことは、やり遂げる」と回答した児童生徒の正答率が高い傾向にある。

※：傾向 ○：よい傾向 ▲：改善の必要あり ⇒：改善策

小学校	中学校
○「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合が高い。 ○「国語が好きだ」と回答している児童生徒の割合が高い。 ○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問に対し、当てはまると回答している児童生徒の割合が高い。  ○自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあると回答する児童の割合が高い。  ▲学校の授業以外に平日、1日に勉強する時間が県平均と比べると少ない。 ⇒規則正しい生活の中に、家庭学習の習慣を身に付けさせ、継続的に行うことができるように指導する。	○今住んでいる地域の行事に参加していると回答する生徒の割合が高い。  ▲将来に夢や目標を持っている生徒が県平均に比べて低い。 ⇒職場体験や上級学校調べ、立志式などを通して、夢や目標を持つことの大切さを指導する。  ▲平日、1日当たりのテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間について、2時間以上と回答する割合が県平均より高い。 ⇒計画を立てた有効な時間の使い方について、授業で取り上げたり、家庭に情報提供したりしていく。

調査結果を受けての改善に向けた取組

今後の改善に向けて、「美里の教育スタイル」を活用し、共通行動の下、日々の授業改善を重点に取り組んでいく。そのために、教育委員会が訪問する「日常の授業参観」を実施して、授業者にフィードバックを行っていく。また、振り返りに焦点を当てて、自分の考えを表現する活動に取り組んでいく。そして、児童生徒を伸ばしている指導方法について教育委員会と学校で検証を行い、よい取組みについて4校で共有するなどして、来年度へとつなげていく。